

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：84602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370912

研究課題名(和文) 朝鮮半島初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡出土の倭系遺物に関する研究

研究課題名(英文) A study on Japan-originated artifacts excavated from iron and iron implements production sites from the Early Iron Age to the Three Kingdoms Period of Korea.

研究代表者

井上 主税 (INOUE, Chika)

奈良県立橿原考古学研究所・その他部局等・主任研究員

研究者番号：80470285

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、朝鮮半島初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡出土の倭系遺物について検討した。その結果、紀元前2～1世紀には、倭人たちが東南部地域で鉄器生産に関与していた痕跡が認められた。一方、紀元後3～4世紀には東南部地域の鉄・鉄器生産遺跡で、5世紀以降は西南部地域の鉄・鉄器生産遺跡で倭系遺物が出土しているものの、遺構には直接伴っておらず、出土量からみても倭人たちの活動痕跡は限定的なものであった。そのため、現時点では多量の鉄器が副葬された古墳時代の様相から想定される、鉄素材をめぐる朝鮮半島との関連性とは必ずしも一致しない面が認められる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I discussed Japan-originated artifacts excavated from iron and iron implements production sites from the Early Iron Age to the Three Kingdoms Period of Korea. As result, it is confirmed that Japanese participated in iron implements production in a southeast area in the first century B. C. from the second century B. C. On the other hand, the trace of Japanese was restrictive without being accompanied to structural remains directly although Japan-originated artifacts were excavated from iron implements production sites from the end of Proto-Three Kingdoms Period of Korea to the Three Kingdoms Period of Korea. Therefore, I found that the contents mentioned above differed from the aspect of the Kofun Period which many iron implements were buried in.

研究分野：考古学

キーワード：倭系遺物 日朝関係 鉄・鉄器生産遺跡 弥生土器 土師器

## 1. 研究開始当初の背景

弥生時代から古墳時代にかけての政治的動向を研究するうえで、鉄器や鉄素材をめぐる朝鮮半島との交渉関係は重要な研究課題である。しかし、従来の研究は直接的に鉄・鉄器生産と関連する鍛冶炉や製鉄炉などの遺構や、鉄器および鉄素材といった遺物の検討が主流であった。

一方で、研究代表者は朝鮮半島出土の倭系遺物を研究するなかで(井上 2014 ほか)弥生土器や土師器は鉄・鉄器生産と関連する遺跡から出土する事例が多いのではないかと予測をもっていた。

## 2. 研究の目的

朝鮮半島において倭人たちが鉄・鉄器生産にどのように関与していたのか、鉄をめぐる倭人たちの動向について、朝鮮半島の鉄・鉄器生産遺跡(金 2010)から出土した倭系遺物の分析から実態解明を目指す。

## 3. 研究の方法

本研究ではこれまでの研究とは視点を変え、朝鮮半島初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡から出土した倭系遺物を主たる材料として、これらの資料を時期別・地域別に詳細に分析することで、より具体的に当時倭人たちがどのように鉄・鉄器生産に関与していたのか、また日本列島に輸入されていた鉄素材が、朝鮮半島のどの地域から供給されたのかといった問題について考察する。

## 4. 研究成果

朝鮮半島南部の初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡から出土した倭系遺物を対象とし、これを時期別・地域別に分析することによって、当時倭人たちが鉄・鉄器生産にどのように関与していたかを検討した。以下、時期別に鉄・鉄器生産遺跡

から出土した倭系遺物の内容について概観する。

### (1) 初期鉄器時代

鍛冶工程が確認できる釜山菜城遺跡と泗川勒島遺跡では、遺構に伴って弥生時代中期前半の土器が出土した。住居跡から鑄造鉄斧片・板状鉄器片・敲石等が出土した金海龜山洞遺跡でも、弥生時代中期前半の土器が出土している。この時期の遺跡は、現段階では半島南海岸部および東南海岸部に限定的な分布状況をみせる。

### (2) 原三国時代

弥生時代中期後半の土器が、前時期に引き続き勒島遺跡の鍛冶遺構で出土しており、蔚山達川遺跡では鉄鉱石の採鉱と関連する土坑から出土した。

大規模集落内における鍛冶工房が確認された京畿道加平大成里遺跡では、鍛冶遺構に伴うものではないが、竪穴遺構から鑄造鉄斧片・鉄片とともに弥生時代後期後半の高坏片1点が出土した。鍛冶炉のほか、鉄滓や小形鉄片が確認された昌原城山貝塚や固城東外洞貝塚などの海岸部貝塚包含層からは、弥生時代後期後半から終末期(庄内期併行)の土器が少量出土した。前時期に比べ、倭系遺物が出土した鉄・鉄器生産遺跡の分布範囲が半島の内陸部や東海岸部にまで広がっている。

### (3) 三国時代

鉄滓が出土しているのみであるが、金海府院洞遺跡や鳳凰台遺跡からは、4世紀代の土師器系土器が少量出土している。

5世紀半ばから6世紀を中心に製錬・製鋼・鍛冶の工程が行われたとされる金海余来里遺跡では、4世紀後半代の土師器系甕を伴出した竪穴遺構と、TK10型式の須恵器坏身を伴出した竪穴遺構が報告されている。半島西南部の全羅道地域では、5世紀初めまで鉄・鉄器生産遺跡から出土した倭系遺物が確認できないが、5世紀後半以降には

須恵器や埴輪等の出土がみられる。ただし、倭系遺物は鍛冶遺構に直接伴うものではなく、鍛冶遺構自体の詳細な時期も不明である。

4・5世紀代の鍛冶工程が確認された光州山亭洞遺跡では、別遺構から須恵器坏身や高坏が出土した。6世紀を前後する鍛冶工程が確認された光州香燈遺跡でも、別の住居跡から須恵器坏身や埴輪などが出土した。鍛冶工程のほか、鑄造工程の可能性も指摘される羅州伏岩里遺跡は、羅州勢力が隆盛した5世紀代を中心とする鉄器生産遺跡とみられる(報告書では6・7世紀の遺構と報告)。この遺跡では周辺の墳墓から「有孔平底系円筒形土器」(埴輪壺)や須恵器が出土している。

#### (4) 小結

以上、鉄・鉄器生産遺跡から出土した倭系遺物の内容について概観したが、倭系遺物の存在をもって倭人がその生産にまで関わっていたとするには、遺物の出土状況の検討など多くの検証作業を経る必要がある。半島南部で鉄器生産が最初に確認された遺跡からは弥生系土器が出土している。萊城遺跡1号住居跡における弥生土器の占有率の高さから、初期鉄器時代に北部九州の工人が彼の地で鉄器生産に関与した(村上1999)とされるが、勒島遺跡での様相もこれに近い。

原三国時代になると、倭系遺物は京畿道地域までその出土範囲を広げて確認できるようになり、達川遺跡での様相からは鉄鋳石の採掘にも関わった倭人の存在も想定しうる。ただし、全体的にみれば弥生時代後期以降の土器の出土量は激減しており、鉄・鉄器生産遺構に直接伴うものもみられない。原三国時代の終わりから三国時代初めの3・4世紀は、金海や鎮海地域の貝塚遺跡で鉄滓が出土している程度であり、そこから出土する土師器系土器も少量である。

3世紀後半以降、倭では前方後円墳を中心に鉄器が多量副葬されており、鉄素材の輸入量も増加したと推測される。それに反して、この時期の鉄・鉄器生産遺跡における倭人の活動が見えにくいのは、鉄素材をめぐる流通システムの変化等、別の理由が考えられる。鉄・鉄器生産遺跡に限定しなければ、3世紀後半から5世紀前半にかけて、釜山・金海地域を中心に倭系遺物が出土している(井上2014)。おそらく3・4世紀を中心に、鉄を媒介とした国際交易が金官加耶(古金海湾)において展開していたことと関連するのであろう。

金官加耶衰退後の5世紀前葉以降も、鉄・鉄器生産遺跡にみられる倭人たちの活動は明らかでない。全羅道地域でその痕跡が確認されるものの、限定的である。

一方、倭では5世紀に入り、近畿地方中心部において渡来系鍛冶工人が出現し、武器や馬具が生産されるなど鉄製品の生産量が増大しており、対照的な様相といえる。この時期の鉄素材の入手には、半島南部における倭系遺物や倭系古墳の分布から、釜山地域や加耶西部地域、榮山江流域等が関連したとみられるが、これについては今後の課題である。

6世紀代の余来里遺跡出土の須恵器はわずか1点の出土であるが、新羅の影響下で、製鉄にまで関与した倭人の存在について今後議論できる資料である。

#### <引用文献>

村上恭通 1999『倭人と鉄の考古学』青木書店

金想民 2010「韓半島における鉄生産研究の動向 - 初期鉄器時代から三国時代までを中心として - 」『季刊考古学』113 雄山閣

井上主税 2014『朝鮮半島の倭系遺物からみた日朝関係』学生社

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

井上主税、金官加耶と倭の交流 - 巴形銅器出土古墳の検討を中心に -、金官加耶古墳の築造勢力と対外交流(2016 加耶古墳調査・研究学術大会資料集、査読無、2016、83-93 頁)

井上主税、朝鮮半島初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡出土の倭系遺物について、日本考古学協会第 83 回総会研究発表要旨、査読無、2017 (刊行予定)

[学会発表](計2件)

井上主税、金官加耶と倭の交流 - 巴形銅器出土古墳の検討を中心に -、金官加耶古墳の築造勢力と対外交流(2016 加耶古墳調査・研究学術大会)、2016 年 11 月 22 日、大韓民国国立金海博物館(韓国語)

井上主税、朝鮮半島初期鉄器時代～三国時代の鉄・鉄器生産遺跡出土の倭系遺物について、日本考古学協会第 83 回総会研究発表会、2017 年 5 月 28 日、大正大学(予定)

[図書](計2件)

井上主税、学生社、朝鮮半島の倭系遺物からみた日朝関係、2014、342

井上主税他、角川文化振興財団、騎馬文化と古代のイノベーション、2016、355

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
井上 主税 (INOUE, Chikara)  
奈良県立橿原考古学研究所・企画課・主任  
研究員  
研究者番号：80470285

(2) 研究分担者  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：

(4) 研究協力者  
( )